

一次航海

2月26日、0125西仁屋発0820喜界島SW4理附近着130尋で操業開始SEの強風のため操業は極めて困難で約3時間調査するも漁獲なく島影を操業すべく湾沖合え向う。湾沖3理附近で操業するもイナゴ6尾マツ2尾のみ1700湾板泊。

2月27日、時化。1000風向Wとなり早町港に避泊。

28～3月1日早町港避泊のみ。

3月2日、喜界新着後操業。水深230尋で操業するも潮流速く繩立ち意の如くならず操業不能。300m附近から西え寄ると急激に残くなり150m位になる。こゝではイナゴ5尾を釣るのみ。潮流はNE、ヘタ寄り約20分航走して200m、150mで操業したがマツ2尾イナゴ4尾だけであつた。

3月3日喜界高北端トビヨ崎N/W3理附近を調査するも魚探故障となり水深不明のまゝ操業するも總括か湾沖3理附近移動するも餌付後置。SWの風波強まり1700早町港避泊に入る。漁獲マツ1尾、イナゴ6尾、アラ2尾

3月4日、時化。早町港泊のみ。

3月5日、喜界島南端よりSW/W16理沖合水深150尋で操業潮流NNE流で比較的ゆるく繩立はよかつたが餌付は不良。正午過ぎから潮流Eに変じ速くなり15時頃は二重潮となり操業困難で餌付全くなし。餌料なくて1705西仁屋に向う。

漁獲マツ3尾、ナビギ4尾、雑3尾

3月6日、0925西仁屋帰着

二次航海

3月18日、03^h10^m西仁屋発。總1島新曾根に向ふ。

10^h25^m徳之島新曾根着操業するも漁全くなし。魚探故障のため意の如く、操業出来ず。加うるに時化模様となりたるため15^h40^m操業を止め18^h00^m徳島避泊。

3月19日時化となり04^h45^m徳島港諸鉾に向ふ。10^h00^m諸鉾着板泊す。

3月20日時化避泊のみ。魚探修理するも復旧せず。

3月21日02^h05^m諸鉾発。喜界島漁場に向う。07^h20^mより喜界島SW/S6理附近操業するも餌付なし。13^h00^m④漁場附近え移動5びさ500勾～700勾程度のもので好漁あり。水深150～200尋潮流NNW18^h40^m操業止め。

20^h10^m湾沖板泊。

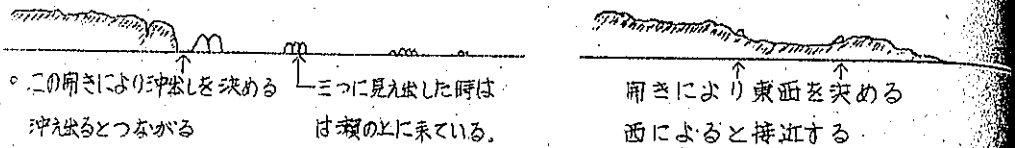
3月22日、05^h25^m湾港④漁場に向う。06^h50^mより操業開始。潮流NNWにして血引ほつほつ釣れる。午台下火となるも本日計約40貫を釣る。17^h50^m操業止め。湾板泊

3月23日、05^h25^m湾港。07^h00^mより昨日附近操業するも潮流SEにして見込なし。午后天候悪くなり、明後の操業を断念。13^h10^m西仁屋に向う。19^h30^m西仁屋入港

「漁場」について

※ 喜界新をぬ

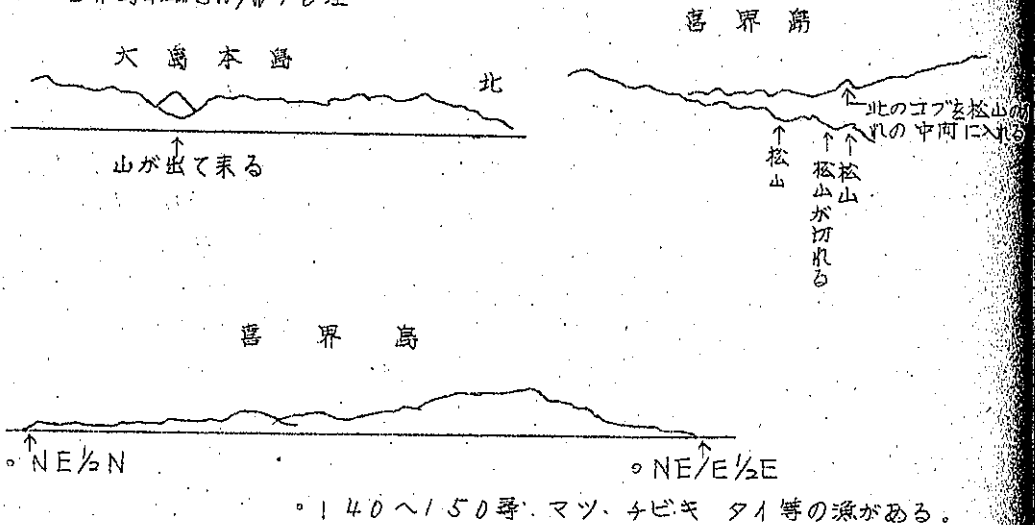
喜界島シツル崎S/5埋沖であるため、山あてがとりにくく漁場の発見が容易で、加うるに大島本島及喜界島は何れ高山がないのであてにくい。此のそぬは相当広狭い処で50尋程度深い処で350尋内外であり、100尋附近ではホタテ、マツ、200尋内外ではナビキの好漁があるといわれる。尚地元業者の山アテによれば次図の通り。



※ 喜界島トビヨ崎N/W3埋

3埋から沖に出るに従つて180尋、200〜220尋、230〜240尋の三枚に分れ、何れもナビキ漁があるらしいが本航海では探知出来なかつたので山あては詳する。相当潮流の速い漁場との事である。

※ 喜界島南端SW/W16埋



考 察

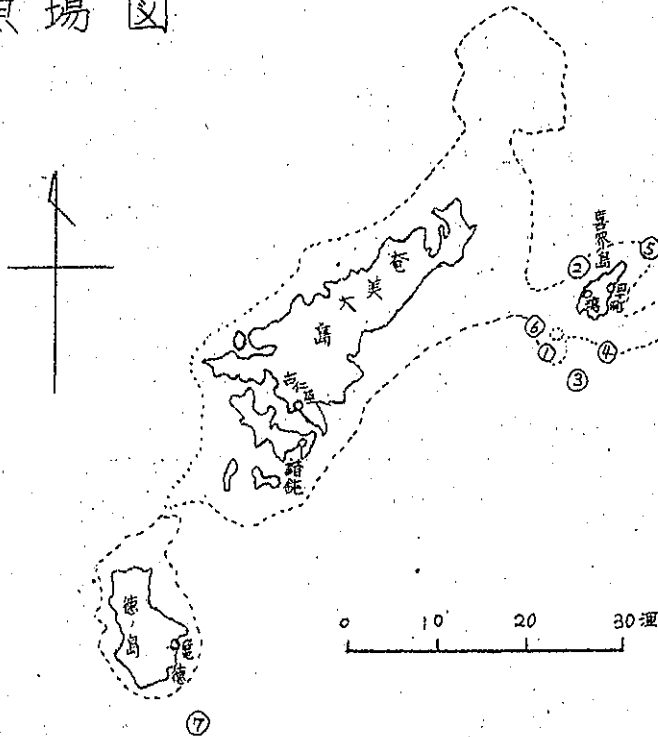
- (1) 荒天続きのため、悪う林に操業出来ず充分な調査は出来なかつた。
- (2) 初めての漁場のため地元業者の話を参考にして調査したが、途中魚探故障を起し意の如く調査出来なかつた。
- (3) 本航海は餌料として冷東イカを鹿兒島より購入した。地元で獲れるムロと併用

る予定であつたが、ムロの漁獲がなかつたため鹿児島送台10日を経過した冷凍機を使用した。既に橋取高際のため餌付は極めて悪かつた。

(4) 吾界新さねは相当広範な漁場のため容易に好漁位置にあたりにくいが当れば、相当の漁が得られると地元業者は云つている。

(5) 吾界北さねでは昨年好漁があつたとの事であるが山当がさかない。潮の速い処らしいが、時期的にゆるい時があると聞く。

漁場図



三重建網

漁業試験

趣旨

本郡には三重網漁業の操業者少く、又技術的にも進歩をみないので之等の奨励とアミラン網による漁獲増進とを目的に、瀬戸内地区を主とした操業を奨励し、併せて、本郡特異のリーフ地帯に適した漁具の改良を目的に試験操業する。

調査概要

調査区域 瀬戸内地区
 期間 自昭和31年1月20日～2月24日